

彗星だより

1927 k 彗星 この彗星は前號には1927 j 彗星として紹介したスクエレル
 プ彗星のこみであるがこれに關して大分お話したいこみがある。最初の頃
 は餘程光度が大きかつたこみ見えて方々で獨立に發見せられた。しかも晝間
 肉眼で認められたこみふのだから素晴らしいものである。ラブラタのマリ
 スタニーは昨年12月6日に獨立發見したが12月17日には眞つ晝間太陽の北
 6°許りの處で見たこみふし、ハンノーバーのヴェルナー氏は12月16日の晝
 すぎに肉眼で獨立に發見したこみふのである。ベルゲドルフのグラフ氏に
 よるこみ12月17日14.4時こみふ頃に頭の明るい部分が25"あり核の直徑が3".8
 であつたこみふから中心は可なり小さくハツカリしたものであつたらしい
 尙ほ東西に二つの筋を引いてをり、尾も認められた。15.4時には地平線へ
 來たが素敵に明るいもので、尾は明らかにあり、そして全體こみの光級
 は $-1^m.5$ であつたこみふこみである。翌18日の14.7時には中心核は11"の
 直徑こなり、スペクトルは連續スペクトルを呈してゐたこみのこみである。
 日没時の15.0時には尾は $3\frac{1}{4}^\circ$ 程で、全體の色は日中の月見る様に白かつた。
 そして15.8時には尾は充分 2.5° まで擴がつてゐるこみが認められたこみふ
 こみである。そんな譯であつたがこちらでは機會を失して誰も見るこみが
 出來なかつたのは大に残念である。

この彗星の軌道のこみを前に一寸誌したが、何しろぎの觀測も皆不充分
 なものが多くて、こみふのは晝間觀測したものは他の星に比較するこみ
 が出來ず只目盛環にのみ手頼るこみふ様な譯だからである。12月19, 20,
 21日の觀測から自分は軌道を求めたが餘り他の觀測を充分に表はすこみふ
 譯にゆかぬ。その後クロンメリン氏が計算したものは發見當初から12月21
 日までの觀測を數分の範圍でよく表はすこみ銘うつてあるが必しもその様に
 も思はれないので同列にならべて見る。

計算者	ストロム グレン	バンビース ブルクツ	上 田	クロン メリン	デギコ彗星
1927 T Dec	16.80	18.36	17.652	18.008	—
ω	$29^\circ 25'$	$48^\circ 38'$	$41^\circ 10'$	$46^\circ 9.7'$	$12^\circ 53'$

Ω	76°30'	77°12'	76°47'	76°25.2'	77°33'
i	87 58	84 48	86 9	85 27.2	85 6
q	0.1381	0.179	0.1647	0.1724	0.6637

尚ほこの彗星が1846年IVデニコ彗星であらうまいふことであるが、デニコ彗星は75.7年まいふ週期彗星であるから1921年の終り頃に出現すべき筈であるのが今迄に発見せられなかつた。尤もその週期は不確かであるし、上に並べた軌道の要素も似てはるるが、似てゐるのは軌道面丈で ω もqも相當に違つてゐるのである。又、1846年出現の際には只今こは状況が必ずしも一致しないのであるが此度程のさした明るいこはなく6等位であつた。まだ誰もデニコ彗星の擾亂の計算をしたものがないらしいので確かなこは言へないのである。

シュワスマン彗星 1927 j この彗星の軌道はその後クロンメルン氏によつて計算されたところによるこ次の通りである。

T	1925年5月10.9230 U.T.	週期は 16.35298 年こ出されて
ω	259°56' 13."68	ゐる。しかし他の人々の計算では
Ω	322 35 2.18	近日點通過が1926年1月、或は 4
i	9 25 36.95	月で大分違つてゐるのである。こ
Lgq	0.7403755	の彗星は大變光級が低くて餘り長
ϕ	8°24' 42."95	く觀測せられなかつたが出来る丈

の材料から軌道を充分決定する必要があるまいふものである。

この軌道要素はこの3月に近日點を通る筈のホルムス彗星こ相當似てゐるので或はそうでないかミストロムグレン氏は疑がつてゐる。しかしホルムス彗星の週期は、7.333 年まいふこだからクロンメルン氏の算出したものこは大分なヒラキがあるまいふ譯である。

フィリボフ彗星 2月7日コペンハーゲン電報は新彗星フィリボフの発見を報じた。1月28日23時6.0分(萬國時)赤經 6^h 24^m.9 赤緯 +20°16' の位置に光級 11 等の彗星を発見すまいふのであつたが 2-3 日たつて取消しの電報に接した。……甚だ頼りない御紹介であるが、如上の事實は如何こも致しがたいのである。(1928 2 24 上田)